

平成24年度 全8回

文化財担当職員・学芸員が解説を担当します。

滋賀の文化財講座

打出のコツチ

第1回 5月24日(木)

**平成23年度滋賀県
新指定文化財説明会**

〈講師〉

県教委文化財保護課各担当

第2回 6月21日(木)

海を渡った滋賀の文化財
—韓国国立中央博物館展の開催報告—

〈講師〉

井上 ひろ美
(滋賀県立琵琶湖文化館)

第3回 7月26日(木)

裏付けられた城門伝承
—県指定聖衆来迎寺表門の保存修理から—

〈講師〉

尾山 義高
(県教委文化財保護課)

第4回 8月23日(木)

甲賀市櫛野の民俗世界
—滋賀県民俗行事まるごと調査から—

〈講師〉

矢田 直樹
(県教委文化財保護課)

第5回 9月27日(木)

**周防の国から移築された
重文園城寺一切経蔵**

〈講師〉

菅原 和之
(県教委文化財保護課)

第6回 10月18日(木)

**琵琶湖文化館所蔵の
近世絵画**

〈講師〉

上野 良信
(滋賀県立琵琶湖文化館)

第7回 11月22日(木)

近江の肖像

〈講師〉

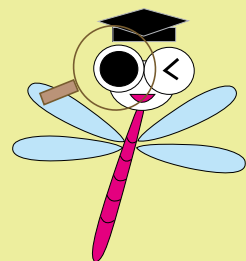
宮尾 素子
(滋賀県立琵琶湖文化館)

第8回 12月20日(木)

近江の高麗仏画

〈講師〉

古川 史隆
(県教委文化財保護課)



※ 都合により内容が変更となる場合があります。

【時間】 13時30分～15時 (受付開始 13時15分から)

【会場】 コラボしが21 3階 大会議室 もしくは 中会議室
(滋賀県大津市打出浜2-1)

【募集人数】 200名

【受講料】 無料 (事前予約制 当日参加も可)

参加のご予約・お問い合わせは…

滋賀県立琵琶湖文化館

主催：滋賀県教育委員会
(主管：文化財保護課)
滋賀県立琵琶湖文化館

協賛：琵琶湖文化館友の会

後援：滋賀県文化財保護連盟

社団法人びわこビシターズビューロー

〒520-0806 滋賀県大津市打出浜地先

TEL 077-522-8179 FAX 077-522-9634

e-mail biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

平成24年度 全8回

滋賀の文化財講座

打出のコツチ

第1回

5月24日(木)

平成23年度滋賀県新指定文化財説明会

平成24年(2012年)3月19日、滋賀県教育委員会は彫刻1件、工芸品1件、古文書1件の有形文化財と史跡1件について新たに文化財指定し、あわせて無形民俗文化財1件を無形民俗文化財として選択しました。

県内屈指の大きさを誇る木造地藏菩薩坐像(守山市幸津川町自治会)、4つの撞座をもつ珍しい形式の梵鐘(米原市願乗寺)、平成15年に発見された水口藩加藤家文書(甲賀市)、最古の三間社流建物の遺構などが注目される金貝遺跡(東近江市)、現在も受け継がれる貴重な雨乞い行事である永久寺の蛇の舞(長浜市)は、いずれも県民に親しまれ、全国に向けて誇りうる文化財です。平成23年度、新たに「県民の宝」となったそれらの新指定文化財について、文化財保護課の各担当者がわかりやすく解説します。

第3回

7月26日(木)

裏付けられた城門伝承 —県指定聖衆来迎寺表門の保存修理から—

県指定聖衆来迎寺表門は平成21年11月から24年3月まで、屋根瓦・木部・基礎等の部材を全て一旦解体して各部材を修理し組み直す修理工事を実施しました。表門は明智光秀が築城した坂本城の門を移築したと伝えられてきましたが、これまで伝承の裏付けはありませんでした。今回の修理にともなう詳細な調査の結果、もとは櫓門と呼ばれる城門の部材を移築したものに間違いのないことなどから、実際に坂本城の城門であった可能性が高いことが分かりました。修理を担当した文化財保護課建造物担当の職員が、新知見を交えて詳細に説明します。

第5回

9月27日(木)

周防の国から移築された重文園城寺一切経蔵 —園城寺の慶長年間の伽藍復興—

園城寺は、文禄5年(1595)の豊臣秀吉による關所令で境内仏堂のほとんどが取り壊され、寺は廃絶の危機に直面しました。關所令が出された理由は現在でも明らかではありませんが、3年後の慶長3年(1598)に關所令は解かれ、寺院の復興が始まります。一切経蔵は、この復興事業により、周防国吉敷郡山口郷(現在の山口県山口市)の国清寺にあったものを、慶長7年(1602)に毛利輝元が移築したものです。一切経蔵は、平成22年度に保存修理事業を実施しましたが、今回の修理で得られた新たな史料をもとに、慶長年間の園城寺の伽藍復興と、一切経蔵の移築の経緯について報告します。

第7回

11月22日(木)

近江の肖像

肖像画に描かれた高僧たちの袈裟に注目します。袈裟は本来「糞掃衣」にはじまり、時代とともに変換します。

仏教において、開祖や師の姿を描いた肖像画は、その教えや相伝を示すものとして重要視されました。高僧像は理想の姿に描かれ、それにふさわしい袈裟や衣を身にまっています。

本講座では、最澄や円仁など近江ゆかりの僧侶たちの身にまとう袈裟の特色や服制などについて解説し、肖像画への理解を深めます。

第2回

6月21日(木)

海を渡った滋賀の文化財 —韓国国立中央博物館展の開催報告—

昨年、琵琶湖文化館の所蔵品を中心とする滋賀の文化財たちが、大韓民国国立中央博物館(ソウル特別市)で開かれた特別展「日本 仏教美術—琵琶湖周辺の仏教信仰—」で紹介されました。この展覧会は文化庁が海外文化交流事業として毎年行っているもので、滋賀の文化財はわが国を代表する仏教美術作品群として公開されました。

本講座では、この展覧会の開催準備、展示作業や開会式の様子、そして展覧会の反響などについて詳しく紹介し、滋賀県の文化財が国際文化交流の場で立派にその役割を果たしたその具体像について報告します。

第4回

8月23日(木)

甲賀市櫛野の民俗世界 —滋賀県民俗行事まるごと調査から—

滋賀県民俗行事まるごと調査では平成22年度から県内各地の民俗調査を実施しています。平成23年10月には、甲賀市甲賀町櫛野で大学生とともに公民館をお借りして合宿調査を行いました。

櫛野寺の観音さんで有名な櫛野ですが、山の神や盆行事などの民俗文化についても今なお豊かに伝承されていることが明らかとなりました。合宿調査の様子を紹介するとともに櫛野の民俗文化の特徴について解説します。

第6回

10月18日(木)

琵琶湖文化館所蔵の近世絵画

琵琶湖文化館は、優れた仏教美術を有する博物館として知られていますが、近世絵画のコレクションにも見るべきものが多くあります。

こうした収蔵品(所蔵品・寄託品)の名品を紹介する展覧会が、平成25年1月より静岡を皮切りに、仙台・島根と三会場で順次開催されるのにさきがけ、琵琶湖文化館所蔵の近世絵画について、展覧会に出品される作品を中心に、その魅力を紹介します。

第8回

12月20日(木)

近江の高麗仏画

10世紀から14世紀にかけて朝鮮半島を治めた高麗は、仏教を国教化して保護したため、優れた仏教美術が生み出されました。その代表といえるのが仏教絵画で、「高麗仏画」と総称されています。現存する高麗仏画の総数は約150点と少なく、その内約100点余が日本にあり、滋賀県にも延暦寺や聖衆来迎寺などに伝えています。

本講座では、日本の仏画とは趣を異にする高麗仏画の魅力を紹介するとともに、高麗仏画の日本における模写と考えられる東近江市・法蓮寺の絹本着色被帽地藏像(滋賀県指定有形文化財)について考察を加えます。

日時・タイトル・講師および内容の一部については、都合により変更となる可能性があります。最新の情報については逐次報道発表するとともに、滋賀県立琵琶湖文化館ホームページ(<http://www2.ocn.ne.jp/~biwa-bun/>)に掲載しますので、直前にご確認の上、参加いただきますようお願い申し上げます。